

# ホテルの中庭ガーデン装飾 2025

佐久平総合技術高等学校 生物サービス科 植物活用コース  
3年 遠藤彩史 佐藤冬優 佐原雅玖 指導者 柳澤瑞樹

## 1 はじめに

昨年度(2024 年度)、「ホテルサイプレス軽井沢」の支配人から「高校生ならではのアイデアで中庭を装飾してほしい」と依頼があり、ガーデン装飾を行う研究がはじまった。私たちはこの研究を引き継ぎ、課題改善を図った。

## 2 目的

自らが考えたデザインで中庭を装飾し、お客様に楽しんでもらうことを目標に、考えたデザインが期間を通して中庭装飾として機能するか、植物の生育を観察することで確かめる。また、次回の実践につながるようお客様からアンケートを取り、自分たちの技術や表現を評価してもらう。将来、花屋や造園職人を目指す上で、これまでの学習の成果を実践的に活用し、更なる学びの向上を図ることを目的とした。

## 3 材料および方法

(1)期日 令和7年2月25日～令和8年1月13日

(2)場所 ホテルサイプレス軽井沢

(3)材料 アサガオ、ペチュニア、マリーゴールド、インパチェンス、ニチニチソウ、ハツユキソウ、ビオラ、ナデシコ、ハボタン、シロタエギク、アイビー、ハツユキカズラ、オリヅルラン、プランタ、ハンギングバスケット、支柱、フック、カラーサンド、貝殻、ガラスボール

(4)実施方法

- ① 事前に現地を訪れ、調査する。(図1)
- ② デザインを考えてまとめる。
- ③ ホテルの方に提案をして考えを伝える(図3)
- ④ 花の定植をおこなう。
- ⑤ お客様にアンケートに答えてもらえるよう、アンケート回収ボックスを設置する(図2)
- ⑥ 基本的な管理はホテルが行うが、定期的に様子を見に行き、管理する。
- ⑦ 秋も同様に②～⑥の手順で行う。
- ⑧ アンケート結果を分析する。

(5)アンケート調査項目

- ・石膏プランタの寄せ植えの印象、温度感
- ・パーゴラテラスの印象、温度感
- ・入口通路の印象、温度感、その他感想



図1 晩冬の中庭を確認するところから研究スタート

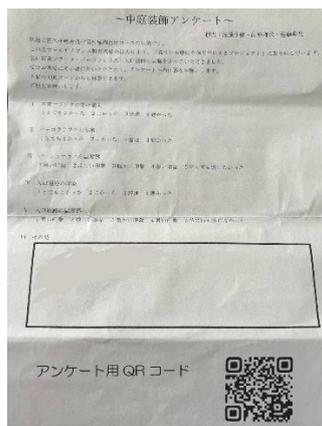


図2 紙アンケートとアンケート QR コード

## 4 結果と考察

### (1) 夏の装飾 定植日6月13日

昨年度の研究課題は大きく3点あった。1つ目は、石膏プランタの日当たりや排水性を考慮して、生育環境に応じた草花を選定することである。2点目は、パーゴラテラスにおけるガラスボールである。3点目は、アンケートのデジタル化により回答数の増加を目指すことである。これらの点を考慮しながら、改善を図った。

夏のコンセプトは、青や白などの冷涼感のある花、グリーンカーテンを用いて涼しさを表現することとした。使用する植物は自分たちで播種し、ポット上げや殺虫剤の散布、アサガオは誘引なども行った。本年度、特に工夫を凝らした場所は入口通路、パーゴラテラス、石膏プランタである。

入口通路では、通路の片側に青いアサガオの鉢植えを置くことでグリーンカーテン、反対には白と紫のペチュニアプランタを置くことでキラキラとした印象を出し、入口から目を引くものを造りたいと考えた。(図4~6) 入口通路でアサガオとペチュニアで葉を食べられる被害があり、植物の周りを探したところセマダラコガネがいた。それ以外にもヤスデもいたが、調べたところ基本的に益虫のためそのままにした。結果として、ペチュニアは徒長してバランスの悪い、貧弱な株になり、アサガオは期間中に開花しなかった。それどころか、発蕾もなかった。後で確認したところ、用いた品種がセイヨウアサガオだったために開花時期が遅いことがわかった。

パーゴラテラスではハンギングバスケット、ガラスボール、アサガオのグリーンカーテンを実施した。(図7、8) ハンギングバスケットはきれいに花が咲いたまま保つことができた。ガラスボールで使用した貝殻の余りなどを使用することでバスケット自体にも彩りを添えた。アサガオのグリーンカーテンはきれいにツルを誘引することができ、グリーンが映えた。先輩たちが課題としていたガラスボールは、ボール内を海辺にイメージし、色砂と貝殻を使用することで水が入っても違和感がなく、時間がたっても汚れが目立つことはなかった。事前に学校で雨風からの耐久テストをしていたことも功を奏した。

石膏プランタは日当たりの関係から徒長しやすい傾向があった。本年度はマリーゴールドの生育が悪く、ペチュニアもバランスの悪い生育状況であった。(図9~10) 石膏プランタは本年度もあまり見栄えが良くなかった。原因は夏でも中庭に当たる直射日光の時間が限られ、日陰になる時間が長く、光合成不良が起きていると考えられる。半日陰でも草姿が良く、徒長しない花の選定が重要である。日当たりの良い場所では、インパチェンスのプランタの生育が旺盛で、花も良く咲いていた。(図11)

8月、夜の中庭の様子を見に行き、ホテルを訪れた。イルミネーションが中庭全体に広がり、とても素敵な空間であった。(図12) グリーンカーテンのアサガオの花が咲いていれば、イルミネーションの光がアサガオの花を照らし、夜空に輝く見応えのある装飾ができた可能性があると感じ、悔しさが込み上げた。



図3 佐藤支配人との打合せ



図4 中庭の直線通路への装飾



図5 直線通路のペチュニアプランタ



図6 直線通路のアサガオのグリーンカーテン



図7 パーゴラテラスの様子



図8 ガラスボール



図9 石膏プランタへの夏の定植



図10 7月18日(定植後約1カ月)の石膏プランタ



図11 7月18日のインパチェンス



図12 夏の夜を彩るイルミネーション

(2) 秋の装飾 定植日 10月25日

夏デザインからの移行期間が短く、秋冬の苗栽培が困難なことがわかり、学校で作ったハボタンと身近で手に入る苗を購入してもらった。(図13)夏の片付けでは、ツルをとる、生育不良株を抜き取るなどの作業をし、秋の定植の準備をした。(図14)パーゴラテスでは、数日と短い期間であったが10月末のハロウィンに合わせて装飾した。(図15)石膏プランタはハボタン、アイビーなどの葉物を中心に、夏と比べて落ち着いた色のものを使用し、秋冬らしさを演出した。(図16)1月に観察しに行ったところ、ハツユキカズラは紅葉し、閑散とした石膏プランタを彩っていた。(図17)ハボタンは予想していた生育を見せず、株が非常に小さな状態であった。(図18)冬の軽井沢は佐久に比べて低温であり、予想以上に草花の育ちが進まないことがわかった。



図13 購入した秋苗



図14 石膏プランタ夏の片付け

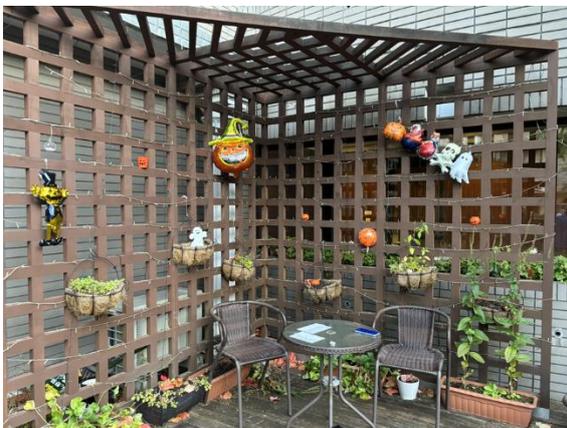


図15 秋のハロウィンパーゴラ



図16 秋の石膏プランタ



図17 1月の石膏プランタ



図18 1月のハボタンプランタ

### (3) アンケート結果

夏のアンケート実施期間は7月18日から9月12日までの2か月である。回収数は11であった。入口通路では、「冷涼感を感じた」という回答が多く、目指していた涼しさを感じられる中庭にすることができた。しかし、その他のコメントでは、「色どりが少ない」、「もっと花が咲いていてもよかった」などの声が多くあり、花で見応えのある中庭を作ることができていなかった。秋のアンケートは実施期間が短く、回答が集まらなかった。1年を通じて、お客様からの意見をいただくことは簡単ではなく、アンケートに答えてもらえるように工夫する必要があると痛感している。

## 5 反省と今後の課題

石膏プランタの草花の生育はあまり良くなく、石膏プランタの材質が影響しているのか、乾きにくい特性をもっている。そのため、ペチュニアは徒長して株が貧弱になり、マリーゴールドなども株が小さいままであった。次年度は、石膏プランタの設置されている位置における光の当たり方や排水性を考慮して、その生育環境に応じた草花を選定することを最優先課題としたい。また、ホテルの方が日々行っているかん水の時間、量なども想定して、草花の管理方法も打ち合わせをして進めていきたい。

パーゴラテラスにおけるガラスボールは、高地でありながら「海辺」をイメージさせる空間を演出し、草花とうまくマッチングさせることができた。夏場は比較的日照条件が良いので、ハンギングバスケットには半日蔭でも生育の良い草花を選定したい。

入口からの直線通路は、ぜひアサガオのグリーンカーテンを成功させ、イルミネーションとアサガオをテーマとした夜景の装飾も考え、光と花のより一体感がある装飾を考えたい。

お客様からの意見をいただくアンケートは、回答数を増加させる工夫が必要である。サービス向上のための意見収集をどのように行っているのか、ホテルの方に助言をいただいてアンケートを作成し、設置したい。

さらに、来年度は中庭だけでなく、ホテルの駐車場入口の花壇装飾も日照条件を比較する場所として活用してよという提案があった。中庭とそれ以外の場所で、日照条件を比較して生育の違いなども調べていきたい。

## 6 謝辞

ホテルサイプレス軽井沢様には、昨年に引き続き中庭装飾に携わらせていただき、貴重な経験を積むことができました。思うように草花の生育が進まず、見映えの悪いものになってしまい、ご迷惑をおかけしている部分が多々ありますが、それでも快く研究を支援していただき、厚く御礼申し上げます。

本研究は長野県産業教育振興会の「特別生徒研究助成」を活用させていただき、研究に必要な資材を調達することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。